



活動日は天満宮で安全祈願



九州運輸局功労者表彰式 ただ一人の女性受賞者



趣味は太極拳 週1回のサークルに15年ほど通う



藏原 絹枝 Kurahara Kinue

昭和14年生まれ。平成16年4月からJR松橋駅駐輪場ボランティア、子ども見守りボランティアとして活動。平成29年に体調を崩して駐輪場ボランティアを引退した後も、松橋駅前を通学する子どもの安全を見守り続けている。平成30年、その功績がたたえられ、九州運輸局から鉄道関係功労者等表彰を受賞。

駅の見守り活動

朝7時15分、ひっきりなしに往來する通勤・通学者や送迎の車で混雑するJR松橋駅前に、元氣な「おはようございます」の聲が響く。子どもたちの登校を見守り、あいさつを続けるのは、この道18年目のベテラン、藏原絹枝さん。

以前は、見守り活動の前に駅駐輪場の整理も行っていた。自転車の移動はかなりの重労働。自分のできるかと不安になることもあった。しかし、明るいあいさつと自転車の片付けをお願いする優しい声掛けが利用者に受け入れられていく。冬にはお湯を持参し、温めたタオルで凍ったサドルを拭くことも。「おばちゃん、ありがとう」「腰を痛めないでね」の聲が

宇輝人

vol.59

命を守る「おはよう」

さらなる活力を生み、活動は自信へとつながっていった。

忘れてはいけない記憶

「私は歩行者優先ではなく、駅に急ぐ人を優先したいです。」
交通ルールとは真逆のこの発言の裏には、藏原さんの胸に刻まれている出来事がある。

それは7、8年ほど前のこと。いつも駅から自転車松橋高校へ向かっていった少女の姿を見掛けなくなった。

——なんかあったのかな……

あるとき、駅を訪れた松橋高校の職員から、その少女が交通事故で亡くなったことを聞いた。四十九日の法要に参加するというその職員に、ろうそくと線香を託した。「ある女学生へ」と記して。数週間後、駅から藏原さんを見つめている一組の夫婦に気付いた。「あいさつ運動ですか」と声を掛けてみると、面影のある容姿。あの少女に似たきれいな母親だった。「私が車で乗車駅まで送ったときに、手前で降ろして走らせたら横切った車にひかれたんです。ちゃんと送り届けていれば——。」そう言っ言葉詰まらせた母

親の姿に、少女の温かな声や気遣いを思い出し、藏原さんも涙が止まらなかった。今でもその光景が頭から離れないという。

子どもの命が優先

「この駅前も車はみんな急ぐんです。歩行者優先というけど、その事故があったから、命を守るために——。」

藏原さんの行動は、子どもの命を守ることが何よりも優先。児童の通学路も、不規則に車が通行する駅のロータリー側から横断歩道のある反対側へ変更してもらった。「臨機応変が大事。目で見て、一瞬で判断しなければいけません」

ん。神経は使いますよ。」
一緒に見守り活動をする林田芳子さんは、藏原さんの姿に「自主的に、何事も熱心に続けられているのが本当にすごい。」と話す。

なかなか言葉を返してくれない児童でも毎日おはようを言い続けると、必ず小さな声でも返してくれるようになる。そんなあいさつのつながりが何よりも楽しみ。
「あいさつが生きがいだね。」
駅でいろんな人に声掛けするのが楽しみ。朝のあいさつが一日の始まりなんです。」
元氣なあいさつが、今日も駅前を明るく照らしていく。

